

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

守りを堅めゴールを目指す 念願のネオホッケー全国初優勝

稲妻スカイ

ネオホッケーは、室内で行い、体の接触禁止などのルールにより、幼児から高齢の人まで安全に楽しめるホッケーです。3月下旬に、

都内で開催された全日本小学生&中学生ネオホッケー選手権2017&幼児大会の、小学生低学年混合の部で、稲妻スカイ（市内のネオホッケーチーム）が見事、初優勝を成し遂げました。友人や兄弟の紹介により集まったメンバーが多く、「実際にプレーをして楽しかった」とネオホッケーに

引き込まれていった選手たち。持ち前のチームワークの良さで、きつい練習も乗り越えられると言います。3年前から選手権大会に出場し、「今大会は、特に守備とパスの連携を集中して練習した」と話すチームの皆さん。念願の優勝に、指導する柳田監督は「上の学年の子たちが、チームの土台を作り、みんなを引っ張ってきてくれた。出場選手はもちろんのこと、全員

の頑張りがあつての優勝。みんなの自信にもなった」と、目を細めます。

「今よりもっとパスをつなげ、全員でゴールを狙えるようにしたい」とさらなる高みを目指す選手たち。「これからは高学年の部でも勝てるよう強くなつて、来年も優勝したい」と、力強く話すメンバーの今後の活躍に注目です。



■後列 左から、本橋陸さん、郷間姫奈さん、飯島悠人さん、柳田和人さん、柳田優一さん
■前列 左から、高橋尚史さん、郷間翔之丞さん、田辺美祈さん



外国人の皆さんに宇都宮のイトコを訪れてもらいました

今回のテーマは「宮染め」

今回、私が訪れたのは中川染工場（錦1丁目）。生地に糊を付けた（型置き）、染料を生地にかけて染めたり（注染）、実際に体験して、私だけの「宮染め」手拭いを作ることができました。作業は見た目以上に力加減が難しく、また、微調整が必要です。

「宮染め」は、通気性がよく、乾きやすく、裏表のない統一した柄が特徴だそうです。アメリカには、このような薄くて長い生地や、染め物の手法はありません。

そして、全て手作業で伝統的なやり方をしているのに、若い人も多く働いていてびっくり。伝統が継承されるので、素晴らしいことだと思います。

さまざまな色や柄がある「宮染め」。皆さんもぜひ、「宮染め」を一度手にとって、味わってみてはかがでしょうか。

今回のゲスト

ジャネット ロックさん

(アメリカ)

アメリカオレゴン州出身。17年前から日本に在住。現在は、市内で通訳・翻訳の仕事に携わる。納豆、すし、天ぷらなど、日本食は何でも好き。餃子は、焼き餃子がカリカリしていて好きです。



1型置きを体験2注染を体験3完成した「宮染め」と一緒に4工場の説明を受けるジャネットさん。

「宮染め」について、6月11日(日)午前10時30分～10時40分とちぎテレビ「教えてイトコUTSUNOMIYA」(再放送)で放送します(48ページ参照)。併せてご視聴ください。

◎県の施設を見る「県民バス」参加者募集 ▽日時 7月27日(木)午前8時50分集合▽集合場所 県庁(埴田1丁目)。市内の集合地あり▽内容 日光自然博物館・農業試験場見学。昼食は、だいやの森(各自自由)▽対象 市内在住の人または上三川・市貝・芳賀町民▽定員 抽選50人▽申込 往復はがきに参加者全員(1枚で2人まで)の住所・氏名・当日連絡可能な電話番号・年齢・性別・希望集合地を書き、7月6日まで(消印有効)に、〒320-8501県広報課県民プラザ室☎(623)3766へ。